

経営比較分析表（令和2年度決算）

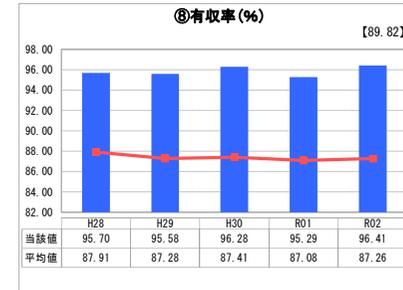
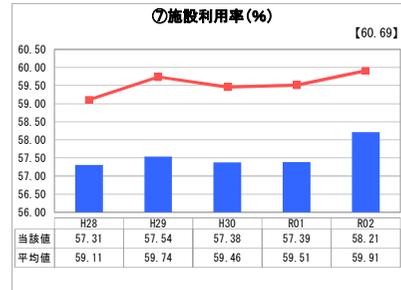
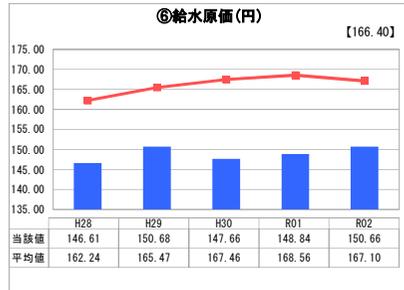
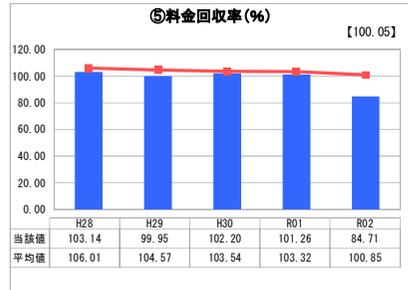
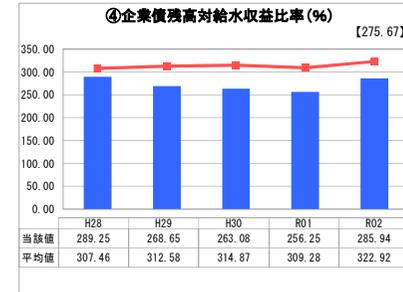
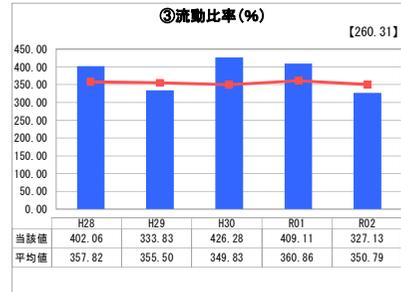
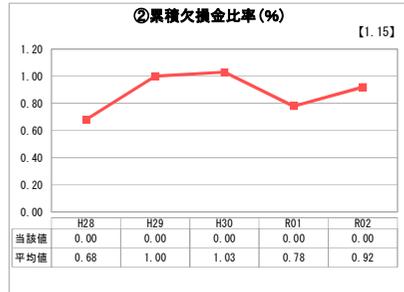
埼玉県 蕨市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	74.95	100.00	2,475	

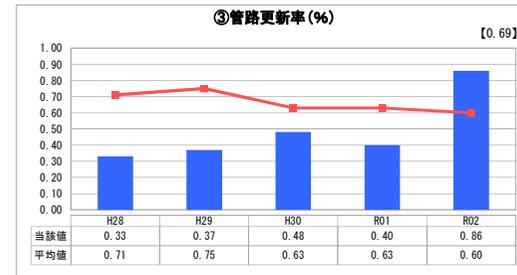
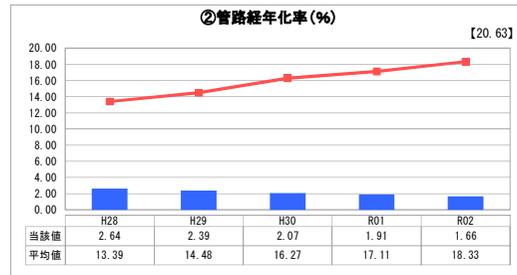
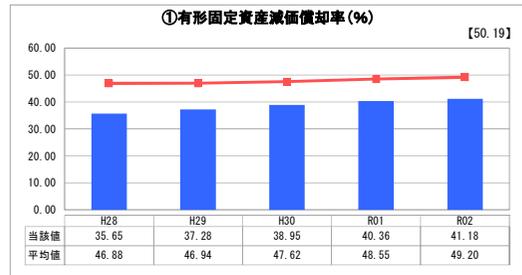
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
75,749	5.11	14,823.68
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
75,841	5.11	14,841.68

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は新型コロナウイルス感染症対策として、基本料金を4か月分免除したことにより、給水収益が減少した結果、大幅に低下している。しかし、100%を上回っており、「②累積欠損比率」も0%を継続し、「③流動比率」についても300%以上となっており、また自己資本構成比率も年々上昇しているため、安定的な経営状況を維持しているといえる。

また、「④企業債残高対給水収益比率」は、給水収益の減少により一時的に上昇しているが、類似団体平均値との比較では、引き続き低い数値となっている。

効率性の観点では、「⑤料金回収率」についても、給水収益が減少の影響により100%を大きく下回っているが、「⑥給水原価」については、給水人口密度が高いことから効率的な給水を実施できており、類似団体平均値よりも大幅に低い状況にある。このほか、「⑦施設利用率」については、在宅者が増えたことにより配水量が一時的に増加した結果、前年度より改善された。しかし、依然利用率が低い状況に変わりはないため、施設更新時には適切な施設能力を見極め、ダウンサイジングを検討する必要がある。

「⑧有収率」は、本年度に過去最高値を記録するなど、直近5年間で95%以上の高数値で推移しており、全国平均及び類似団体平均値の数値を大きく上回っている。今後も漏水調査や老朽管の更新に投資を行い、この水準を維持していくことが重要となる。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は40%程度となっており、類似団体平均と比べて資産の老朽化合いが低い状況にある。

「②管路経年化率」は類似団体平均値と比較して、1/10以下となっており、管路の更新事業も進めていることから、健全性が高く保たれている状況となっている。

「③管路更新率」は、類似団体と比較して低い状況にあったものの、年々増加傾向にある。令和元年度の管路更新率を令和2年度に繰越したことで、令和2年度の管路更新率が高くなっている。

全体総括

経営の健全性及び効率性に係る指標を分析すると、基本料金の免除により一時的に悪化した指標があるものの、蕨市の経営状況はおおむね健全な状態であるといえる。

しかし、事業を取り巻く環境としては、人口減少や少子高齢化などによる水需要の減少が想定される中で、経年化施設の更新や大規模災害に対する応急給水・応急復旧の整備を適切に履行していく必要がある。

このような状況の中、蕨市水道ビジョン(後期計画)に基づき、主要管路の耐震化や水道施設の長寿命化、応急給水体制の整備などを計画的に行っている。併せて財政状況についても、企業債残高の低減など健全経営に向けた取組を推進し、「将来にわたって健全な水道」の更なる強化を図っていく。

経営比較分析表（令和2年度決算）

埼玉県熊本市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	透訓	救輪
人口(人)	建物面積(㎡)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
75,749	6,866	非該当	非該当	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

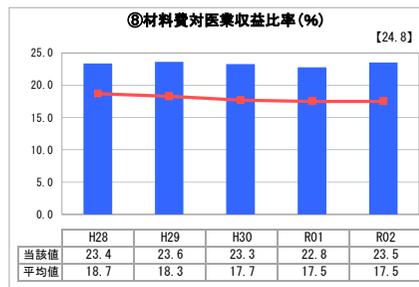
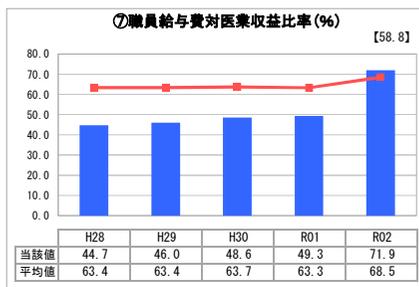
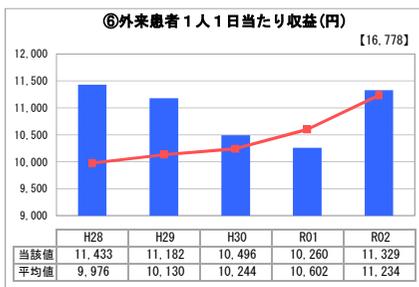
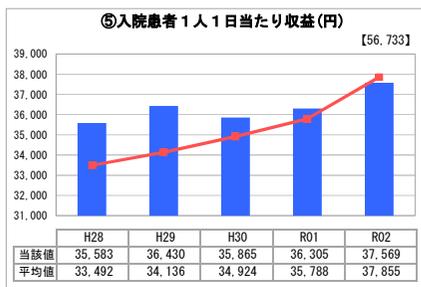
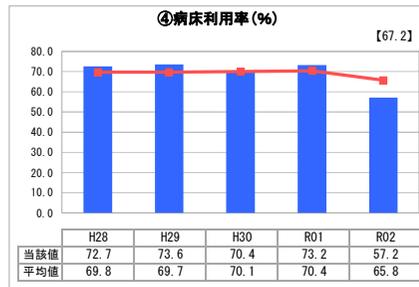
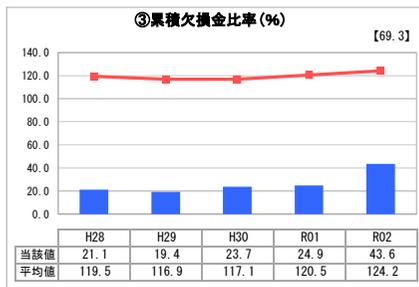
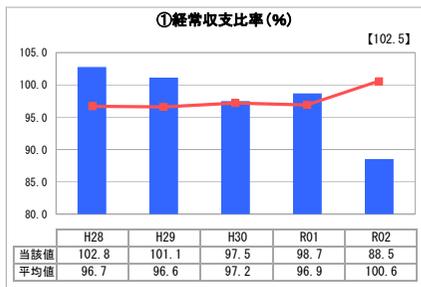
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
130	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	130
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
109	-	109

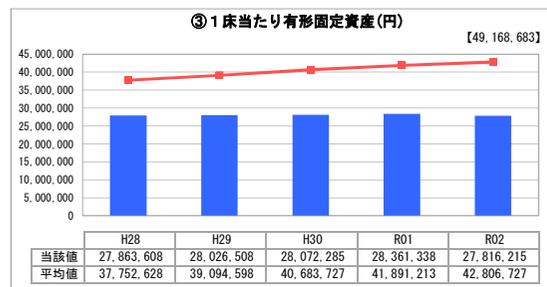
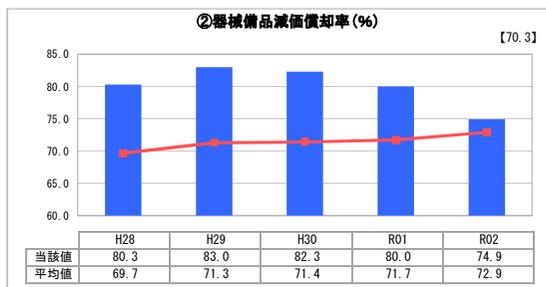
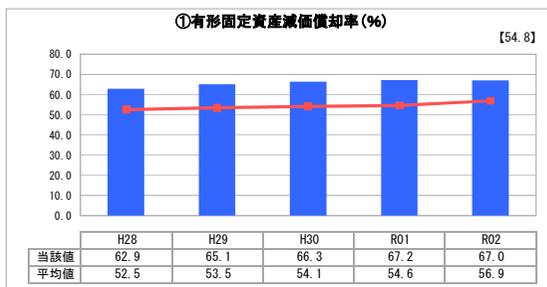
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は、市内で唯一の救急病院・分娩できる施設として、地域医療の重要な役割を担っている。また、不採算部門とされる小児科も標榜し、公立病院としての役割を維持している。新型コロナウイルス感染症対応では、外来において発熱等の症状がある患者の診察及び検査、入院では陽性患者の受け入れを行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う受診控え等により医業収益が大きく減少し、①経常収支比率、②医業収支比率ともに100%を下回り損失を計上することとなった。また、同様の理由で⑦職員給与費対医業収益比率も上昇した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②機械備品減価償却率は、類似病院平均値を上回り、当院の有形固定資産は老朽化が進んでいると言える。

全体総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により経営に係る各指標が悪化した。③累積欠損金比率は類似病院平均を下回っているものの増加傾向である。今後は、経営の健全化のため④病床利用率の回復を目指すとともに⑦職員給与費対医業収益比率、⑧材料費対医業収益比率の改善等、効率的な病院運営に取り組んでいく必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和2年度決算）

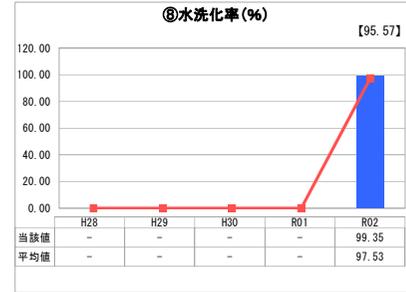
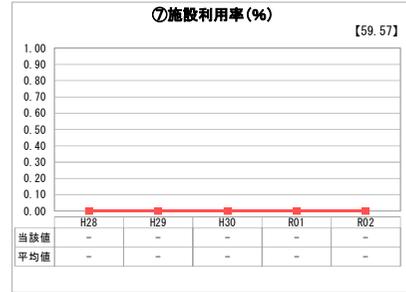
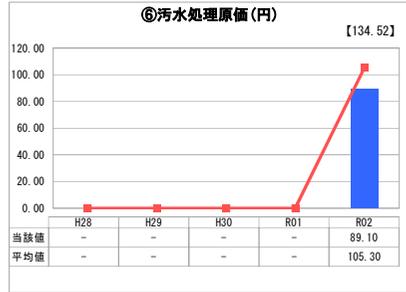
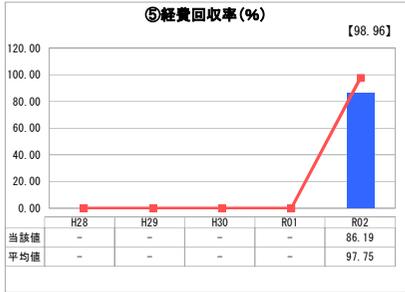
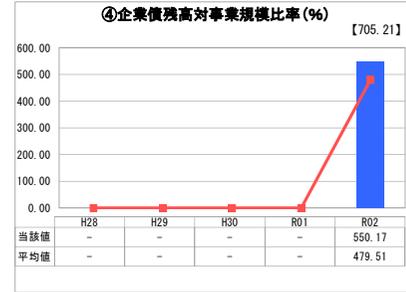
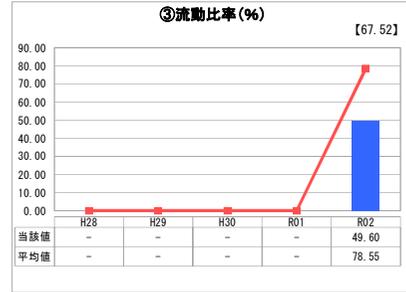
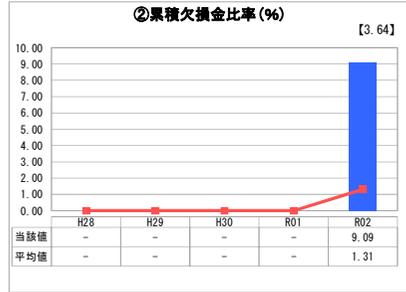
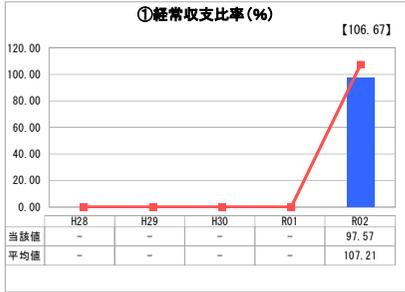
埼玉県 蕨市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ba	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	60.30	96.40	80.47	1,309

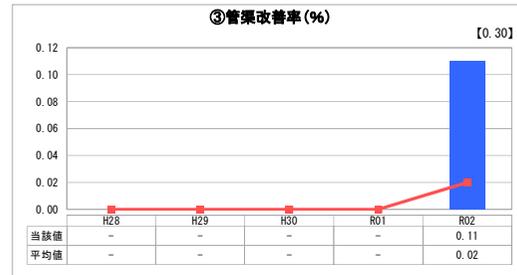
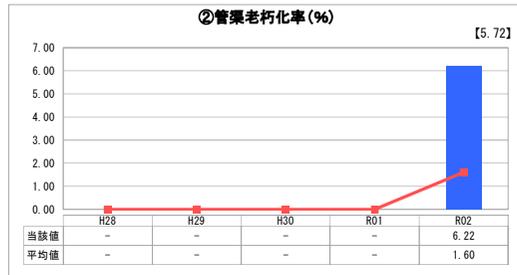
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
75,749	5.11	14,823.68
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
73,111	4.79	15,263.26

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
100%を下回っており、全国・類似団体より低い水準にある。これは、法適用初年度は減価償却費が多く発生したことによるもので、翌年度以降は、償却資産が減少していくため経常収支比率は改善していく見込みである。

② 累積欠損金比率
法適用初年度は減価償却費が多く発生したことと特別損失において退職給付引当金等を計上したことにより未処理欠損金が発生した。翌年度以降は減価償却費が減少することと大きな特別損失が発生しないことから累積欠損金比率は減少していく見込みである。

③ 流動比率
100%を下回っており、全国・類似団体と比較しても低い数値となっている。これは、法適用時の引継現金が少なかったことによるものであるが、今後、企業としての支払能力を高めるため流動資産の確保に努める必要がある。

④ 企業債償還対事業規模比率
全国平均値より低いが、今後も計画的な建設投資を行っていく。

⑤ 経費回収率
100%を下回っており、汚水処理に係る費用が下水道使用料以外の収入により賄われている状態である。新規に下水道を敷設する地域は使用料の増加も見込めるが、その反面、工事費もかかるため経費の削減に努めるとともに適正な使用料を検討していく必要がある。

⑥ 汚水処理原価
全国・類似団体より低くなっており、適切な汚水処理が実施されていると考えられるが、今後、施設の老朽化への対応が控えているため、より一層効率的な維持管理を行い、経費を削減していく必要がある。

⑦ 施設利用率
蕨市では県の処理場に送水しているため、値は未記入となる。

⑧ 水洗化率
99%と高い値を示しているが、下水道整備済地区で浄化槽等を使用している家屋もあるため、下水道へ接続するよう指導を行う。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
全国・類似団体から大きく下回る水準となっているが、法適用前に減価償却された資産については減価償却累計額に計上されていないことによるものである。

② 管渠老朽化率・③ 管渠改善率
今後、法定耐用年数を超える管渠の急激な増加に伴い、管渠老朽化率も増加していく見込みである。そのため、施設の延命化とライフサイクルコストの最小化を図るべく、令和元年度よりストックマネジメント計画に基づいた管路の計画的な改築修繕を実施している。

全体総括

今後、通常の汚水雨水管新設工事に加え、既設管渠等の改築が控えているため、将来的に維持管理費が増加し全体的に支出が増える見込みである。下水道使用料の収納率を上げることによる収益の増加や、不明水対策による有収率の向上、計画的かつ効率的な維持管理によるコストの削減などを進め、経営を健全化していかねばならない。そのため今後は、令和2年度に策定した経営戦略に基づき財政マネジメントを向上させていくとともに、令和2年度より移行した公営企業会計の損益情報・資産情報からの確かな経営状況を把握・分析し、経営改善に努めることとしたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。